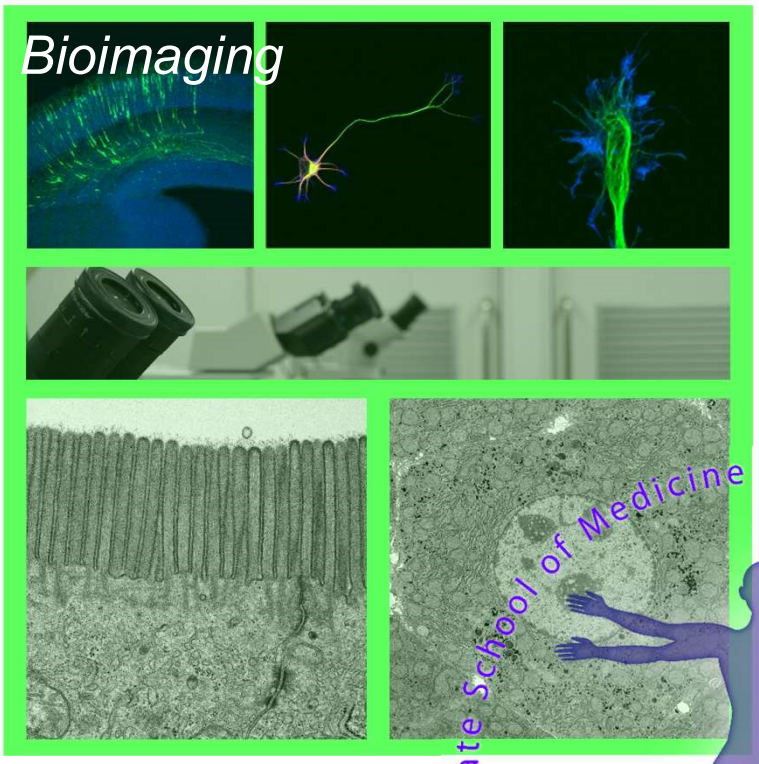
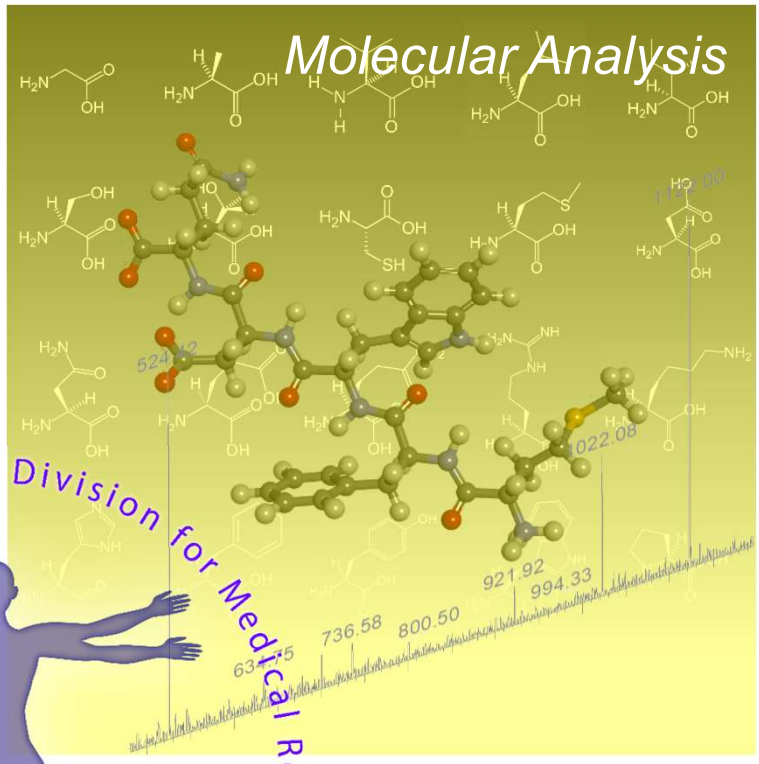
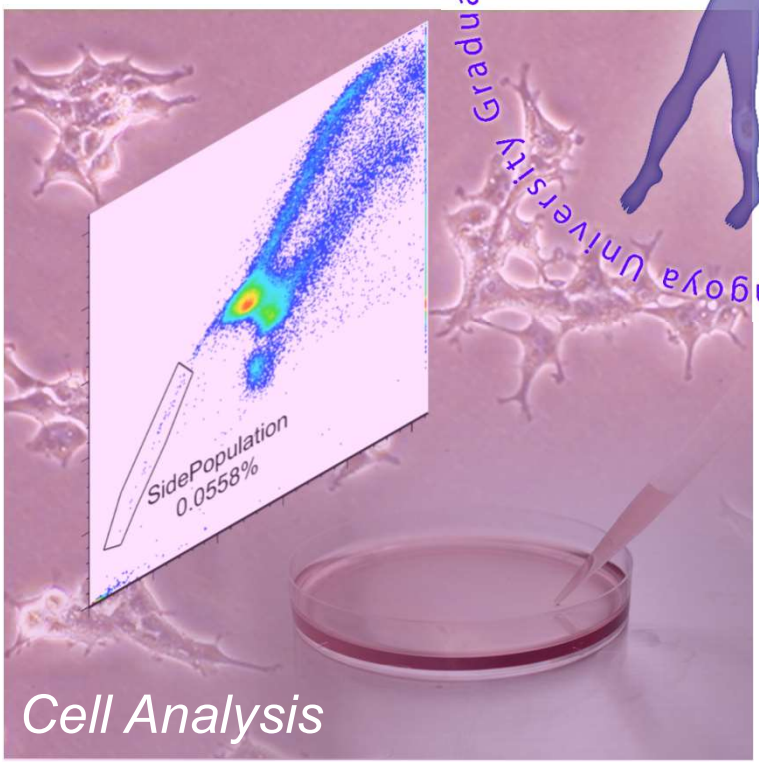
名古屋大学大学院医学系研究科　附属医学教育研究支援センター

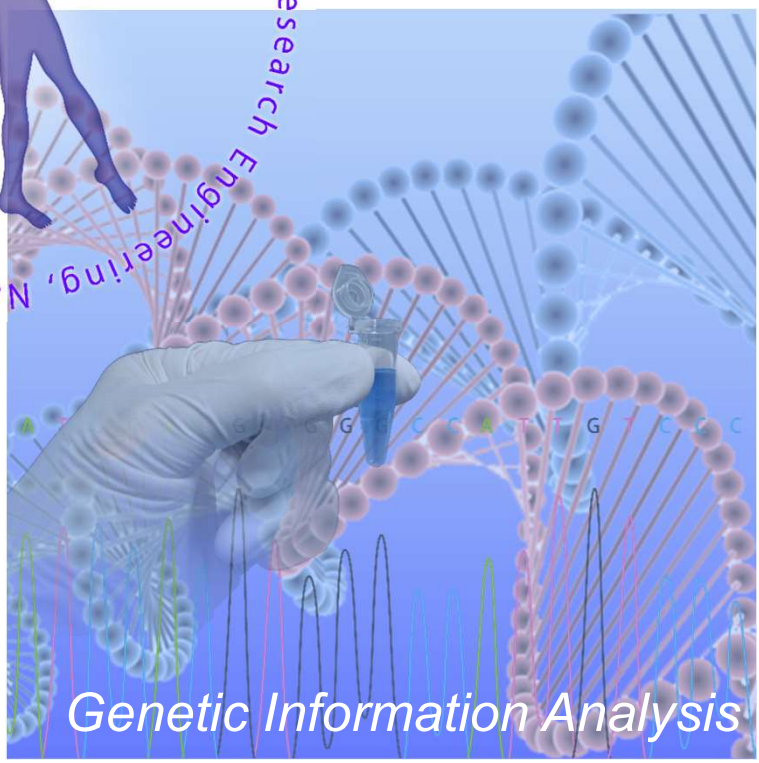
分析機器部門





Graduate School of Medicine
Division for Medical Research Engineering, Nagoya University





分析機器部門 概要

分析機器部門は、名古屋大学大学院医学系研究科および医学部における各種分析・計測機器を集中的に維持管理し、教育・研究および機器利用の効率化を図ることを目的として設置されました。設置当初、利用者は医学部の構成員に限られていましたが、2006年より外部の方の利用も可能になりました。

2014年8月に、これまで数か所に置かれていた全ての機器を医系研究棟3号館に集約し、名古屋大学共用集積施設（分析系３）に指定されました。同時に、新たな機器が導入され、より幅広い分野での研究支援を目指しています。

各機器の使用は原則として利用者自身で行っていただきますが、利用者は、初心者講習や操作が難しい機器の個別講習、分析結果の検討、前処理方法の紹介などの研究支援サービスを受けることができます。

各機器は、4つの研究室（バイオイメージング、分子構造解析、細胞機能解析、遺伝情報解析）に分かれて設置されており、各々の担当技術職員が機器の維持管理、講習会やセミナーの開催、前述の研究支援サービスを行っています。

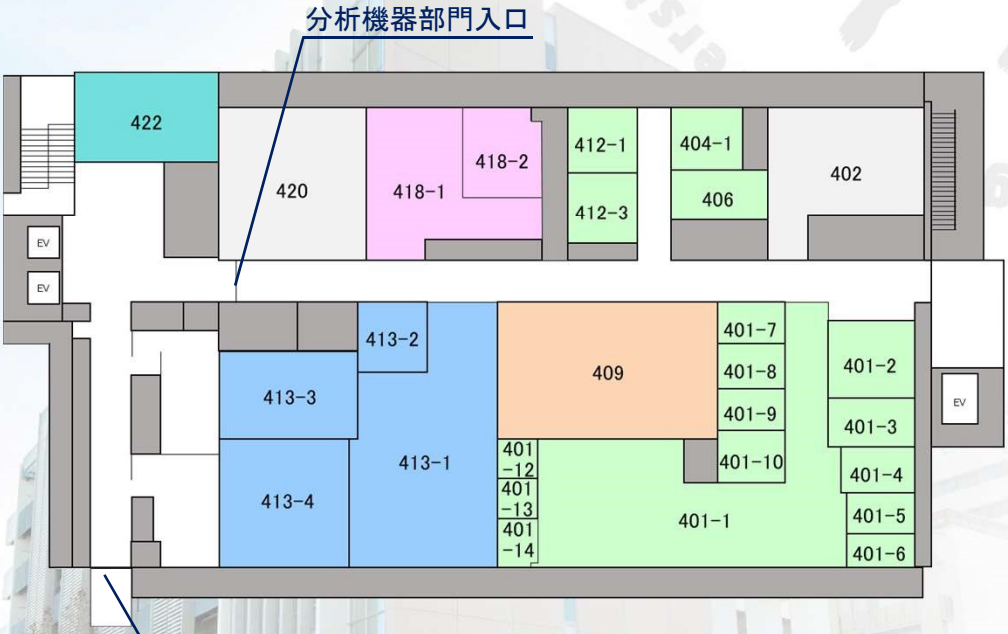
詳細は以下の部門ホームページをご覧ください。

ホームページ：https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kiki/index.html

医系研究棟3号館

4F

401	バイオイメージング研究室（微細構造解析室）
402	実習室
404 406 412	バイオイメージング研究室（電顕室、画像処理室）
409	試料準備室
413	遺伝情報解析研究室
418	細胞機能解析研究室
420	分析機器部門技術室
422	多目的室



施錠時は暗証番号の入力が必要です（職員証・学生証では入館できません）。
詳しくは担当職員までお尋ねください。

5F

501	臨床研究中核病院支援研究室（光顕試料作製室）
502	分子構造解析研究室
510	バイオイメージング研究室（微細構造解析室2）

分析機器部門の各研究室は医系研究棟3号館の4階と5階に、液体窒素室は医系研究棟2号館の1階に配置されており、それぞれ入室には登録申請が必要です（P.4「各種申請手続き」の「入室登録」参照）。

初めて分析機器部門をご利用になる方は、医系研究棟3号館4階分析機器部門入り口のインターホンにてお知らせください。

利用の手順

各機器の利用は原則として利用者自身で行っていただきますが、機器によっては一定の経験が必要なものもあります。初めて利用する際は、事前に担当職員にご相談ください。利用者は、初心者講習や操作が難しい機器の個別講習、分析結果の検討、前処理方法の紹介などの研究支援サービスを受けることができます。

1 機器選択

利用したい機器を分析機器部門ホームページ掲載の「設置機器一覧」にてご確認ください。

機器一覧：ホームページTOP＞設置機器
料金表：ホームページTOP＞利用案内＞＞利用料金

2 利用相談

目的の機器がありましたら、機器の利用方法や利用時の規則など、各担当職員にご相談ください。

3 登録申請

当部門を初めて利用する方は、「各種申請手続き」（P. 4、5参照）から必要な手続きを行ってください。

4 規則確認

利用に際して、必ず利用規則を熟読し、規則に従ってご利用ください。利用規則は分析機器部門ホームページからご確認ください。

利用規則：ホームページTOP＞利用案内＞＞利用規則

5 機器予約

機器の予約は、「設備・機器共用システム」（P4参照）より行ってください（一部の機器はWEB予約を行っていません。各機器の予約簿をご使用ください）。

6 機器利用

各機器の規則に従って利用してください。不明な点や詳細は各機器の担当職員にご相談ください。機器利用後は、「設備・機器共用システム」から利用実績の入力を行ってください。

7 支払い

「設備・機器共用システム」にて入力した利用実績に基づき、利用料金が自動集計されます。集計内容は設備管理者および利用グループ責任者にメールで通知され、確認・修正の後、確定します。

8 結果報告

分析機器部門のご利用によって成果を得られた際は、成果の公表時に、当部門を利用した旨を明示して頂くようお願いしております。詳細は分析機器部門ホームページからご確認ください。また、以下のフォームにて得られた成果の報告をお願いしております。ご協力いただきますようお願いいたします。

報告フォーム：ホームページTOP＞論文・実績＞＞成果（論文・学会発表等）の報告フォーム

機器をより広く、深く、利用していただくために定期的な講習会を行っています。研究のスケジュールに合わせて気軽に参加して、大いに機器をご利用ください。講習会は医学系研究科以外の方の参加も可能です。

定期講習会の他に、随時、初心者の方への機器の利用説明を行っております。機器をはじめて利用する際はお気軽に各担当職員にご相談ください。

講習会案内：ホームページTOP＞講習会案内

各種申請手続き

東海国立大学機構の方（機構アカウントをお持ちの方）

「１．設備・機器共用システムの利用者登録」、「２．入室登録」を行ってください。

１．設備・機器共用システムの利用者登録（問合せ先：イノベーションコアファシリティ運営室）

機器予約・実利用時間の入力・利用料金の請求等に用いるシステムです。機構アカウントでログインし、利用者登録（ユーザー情報入力、利用者グループ加入）を行ってください。

設備･機器共用システム https://es.tech.thers.ac.jp/public/php/mkgKikiSearchTop.php

利用者マニュアル https://es.tech.thers.ac.jp/public/doc/MeidaiSetsubiKyoyoUManual.pdf

→機器の予約が可能になります。（予め利用資格申請および承認が必要な機器もあります）

２．入室登録（問合せ先：分析機器部門）

分析機器部門は常時施錠されており、入室にはICカード職員証・学生証（名古屋大学のみ）の登録が必要です。名古屋大学の方でICカード職員証・学生証をお持ちでない方、岐阜大学の方は、担当職員にお問い合わせください。

１．担当職員に電話でご連絡ください。
２．職員証・学生証を持って分析機器部門技術室（3号館4階）にお越しください。
　　担当職員：小笠原（内線2407）
　　受付時間：平日の9～12時、13～16時

→4階の分析機器部門入口を通行できるようになります。

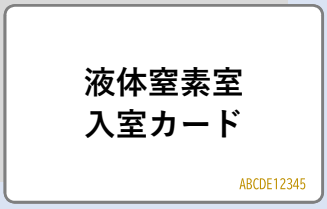
多目的室、分子構造解析研究室、微細構造解析室２（5階）、臨床研究中核病院支援研究室（光顕試料作製室）への入室には、別途登録が必要です。

・多目的室、分子構造解析研究室、微細構造解析室２（5階）
　利用予定機器の担当職員にお問い合わせください。

・臨床研究中核病院支援研究室（光顕試料作製室）
　年度ごとに利用料がかかり、申請が必要です。
①利用規定に同意いただき、**設備・機器共用システム**にて「臨床研究中核病院支援研究室」（設備ID 386）の利用資格申請を行ってください。
②オンラインの登録申請フォームに入力してください。
　　ホームページTOP＞利用案内＞＞各種申請手続
　　「5階 臨床研究中核病院支援研究室（光顕試料作製室）」項の登録案内
　担当職員：小笠原（内線2407）、依藤（内線2404）
　受付時間：平日の9～12時、13～16時

液体窒素を利用される方は、液体窒素室のカードキー（有料）が別途必要です。
液体窒素室は医系研究棟2号館1階0122室です。

１．カードキー発行料金（1,500円/1枚）の支払い
　設備・機器共用システムにて「試料準備室」（設備ID 382）の予約ページから支払いを行ってください。（オプションの「カードキー」を選択）
２．カードキーの引渡し
　　引渡場所：分析機器部門技術室（3号館4階）
　　受付時間：平日の9～12時、13～16時
　　担当職員：小笠原（内線2407）
　引渡しの際に名前・所属の記載をお願いいたします。



東海国立大学機構外の方（機構アカウントがない方）

「１．分析機器部門の利用申請」、「２．設備・機器共用システムの利用申請」を行ってください。

１．分析機器部門の利用申請（問合せ先：分析機器部門）

分析機器部門の利用に関し、当部門長の承認を受けていただきます。利用予定の2週間前までに申請してください。

Ａ．東海国立大学機構の教職員等の利用者グループ（設備・機器共用システム）に加入予定の方

１．利用申請書の提出
以下のサイトから利用申請書【機構内グループ用】をダウンロードし、必要事項を記入の上、責任者の押印を得て、分析機器部門技術室へ提出してください。
利用申請手続き　ホームページTOP＞利用案内＞＞各種申請手続
２．申請結果の通知
申請結果が決まりましたら、申請者にメールでご連絡します。

Ｂ．上記以外の東海国立大学機構外の方

１．担当職員に連絡
使用希望の機器が利用可能かどうか、機器担当者にご確認ください。
学外からのお問い合わせは下記問い合わせ先にご連絡ください。
２．利用規則の確認
外部利用者の制限事項、分析機器部門利用規則をご確認ください。
外部利用者の制限事項　ホームページTOP＞利用案内＞＞外部利用者の制限事項
利用規則　ホームページTOP＞利用案内＞＞利用規則
３．利用申請書の提出
担当職員より利用申請書をお送りします。
必要事項を記入の上、責任者の押印を得て、分析機器部門技術室へ提出してください。
４．申請結果の通知
申請結果が決まりましたら、申請者にメールでご連絡します。

２．設備・機器共用システムの利用申請（問合せ先：イノベーションコアファシリティ運営室）

機器予約・実利用時間の入力・利用料金の請求等に用いるシステムを使えるようにします。
１．の手続き完了（分析機器部門の利用申請承認）後に行ってください。

以下のサイトを参照し、利用申請を行ってください。
https://es.tech.thers.ac.jp/public/SharingSystem/howtouse.html

→システム利用申請が承認されましたら、機器の予約が可能になります。
（予め利用資格申請および承認が必要な機器もあります）

・分析機器部門への入室（問合せ先：分析機器部門）

利用時ごとに入室カードを貸し出します。
特に必要と認められた利用者には、入室カードを長期間貸し出すことがあります。詳細は担当職員にお問い合わせください（担当職員：小笠原　内線2407）。

問い合わせ先

・**分析機器部門**（事務手続き、職員証/学生証登録、液体窒素室専用カードキー発行）
小笠原 志津枝 (OGASAWARA Shizue)　電話：052-744-2407

・**東海国立大学機構統括技術センターイノベーションコアファシリティ運営室**（設備・機器共用システム）
電話：052-789-3820　E-mail：tess(at)tech.thers.ac.jp　※送信の際は、(at)を@に変えてください

バイオイメージング研究室

【概　要】

形態観察に必要な顕微鏡、画像解析ソフト、光顕・電顕用試料作製装置を各種揃え、いつでも使用できるよう整備しています。顕微鏡では、細胞の内部および表面の超微形態観察や元素分析を行う電子顕微鏡、様々なスケールで蛍光・明視野・位相差像などを観察する光学顕微鏡のほか、X線CTなどがあります。光顕試料作製室では組織標本作製装置を設置するほか、試料作製の受託も行っています。

機器の使用方法だけでなく、研究目的に応じた試料作製や画像解析の方法など、お気軽にご相談ください。

Keyword：電子顕微鏡、光学顕微鏡、画像解析、光顕試料作製

電子顕微鏡

【機器紹介】

電子顕微鏡は光学顕微鏡では観察できない微細構造を観察することができます。透過電子顕微鏡では細胞内小器官の形態観察から組織内の元素マッピングや点分析、トモグラフィーによる細胞小器官の立体構造解析を行うことができます。付属機能で超広視野モンタージュシステム撮影を行うこともできます。走査電子顕微鏡では表面の形態観察から元素分析、ジェントルビームによる極低加速高分解観察や透過電子検出器によってグリッド上の超薄切片を観察することも可能になっています。

ウルトラミクロトームは、超薄切片を作製する際のダイヤモンドナイフを微動するコントロール操作性が格段に上がり、面合わせのアプローチがしやすくなっています。マウント部分にカメラが付いているので今まで超薄切片で一番難しかった包埋ブロックとダイヤモンドナイフへのアプローチをディスプレイで確認しながら最適な間隔を解りやすく習得できるようになっています。凍結ステージも付いているので凍結超薄切片も作製することができます。

その他には、カーボン真空蒸着装置、オスミウムプラズマコーター、t－ブタノール凍結乾燥装置、トリミング装置、ガラスナイフメーカーなど電子顕微鏡試料作製の機器が揃っています。

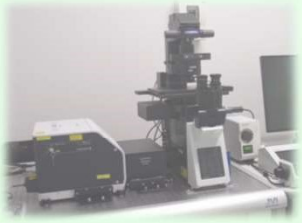
試料作製の事前相談から講習、機器の講習も行っています。代行で試料作製も行っていますので、お気軽にご相談ください。

光学顕微鏡

個体から細胞内の微細構造まで、様々なレベルのイメージング関連機器があります。
撮影装置22台、画像解析ソフト7種類、組織・細胞分取用のレーザーマイクロダイセクション2台、凍結切片作製用の凍結ミクロトーム2台を運用しています。

【機器紹介】

超解像顕微鏡 …… 回折限界を超える分解能で蛍光観察。STORM、SIM、共焦点ベースの手法2種の計4種類
多光子顕微鏡 …… 生体等、厚みがあり光を散乱しやすいサンプルの深部蛍光観察
共焦点レーザー顕微鏡 …… 様々なサンプルの高精細蛍光観察。倒立4台、正立2台
細胞解析装置 …… ウェルプレート等に播いた細胞を自動撮影・解析（固定サンプル用と、培養環境下でのタイムラプス観察用の2種類）
バーチャルスライド顕微鏡 …… 組織切片を広範囲・高速撮影しデジタルデータ化
ライトシート顕微鏡 …… 透明化した臓器や組織を高速に3次元蛍光観察
実験動物用X線CT …… 小動物や骨の内部を非破壊で3次元観察
In vivoイメージングシステム …… マウス個体や臓器の発光・蛍光イメージングと定量



その他、蛍光顕微鏡、実体顕微鏡などの撮影装置、各種画像解析ソフトウェア

問い合わせ先

板倉 広治 (ITAKURA Koji)　内線：2395　　担当：電子顕微鏡分野・液体窒素の供給

依藤 絵里 (YORIFUJI Eri)　内線：2404　　担当：光学顕微鏡分野

古川 麻友美 (FURUKAWA Mayumi)　内線：5782　　担当：光学顕微鏡分野

光顕試料作製室（臨床研究中核病院支援研究室）

組織（臓器）などの生物試料から光学顕微鏡観察用の標本を作製する機器を利用できます。
パラフィン切片や凍結切片、マイクロスライサー切片の組織標本作製に関わる技術指導・技術相談にも対応しています。　※機器の利用には年度毎に登録が必要です。
設備・機器共用システム利用者を対象にパラフィン標本作製やXenium Analyzerの受託も行っています。

【機器紹介】

パラフィンブロック作製

装　置　名　自動固定包埋装置
型　　式　VIP6 AI（サクラファインテック）

固定済みの試料に対し、アルコールによる脱水・脱脂、キシレンによる脱アルコール、パラフィン置換を密閉状態のまま自動で行います。

装　置　名　パラフィン包埋ブロック作製装置
型　　式　TEC6（サクラファインテック）　　2025年1月更新

パラフィン置換した試料から、パラフィンブロックを作製する装置です。

薄切

装　置　名　滑走式ミクロトーム
型　　式　REM710（大和光機工業）

刃を水平に動かすタイプのパラフィンブロック用ミクロトームです。厚さ4μm程のパラフィン切片の薄切に適しています。湯浴式伸展器、伸展板も設置しています。

装　置　名　振動刃ミクロトーム（マイクロスライサー）
型　　式　VT1200S（Leica）

刃を細かく振動させて厚さ20 μm～の切片を作製します。固定・脱水・凍結などを行わずに試料を薄切でき、作製した切片は一般的に浮遊切片として染色に用いられます。

装　置　名　凍結ミクロトーム
型　　式　CM3050S-IV（Leica）

凍結包埋した試料を冷却したチャンバー内で薄切します。ホルマリンなどで固定した試料や、固定液・有機溶媒・加熱などの影響を避けたい試料の標本作製に用いられます。

免疫染色

装　置　名　自動免疫染色装置
型　　式　VENTANA DISCOVERY ULTRA（Roche Diagnostics）

研究用途のIHC染色を自動で行います。
※受託のみの運用です。パラフィン標本、DAB発色、明視野のみ受け付けています。

空間トランスクリプトーム解析

装　置　名　空間トランスクリプトーム解析装置
型　　式　Xenium Analyzer （10x Genomics）

パラフィン包埋組織または新鮮凍結組織を対象に、数百～数千種類のRNAターゲットの細胞内プロファイリングを行うことができ、同一切片上で組織内の細胞種類と遺伝子の位置情報の解析を行います。　※基本的に受託のみの運用です。

問い合わせ先

山口 雄也 (YAMAGUCHI Yuya)　内線：2397　　担当：標本作製分野

小島 結香里 (KOJIMA Yukari)　内線：2397　　担当：標本作製分野

水野 裕子 (MIZUNO Yuko)　内線：2397　　担当：標本作製分野

三澤 伸明 (MISAWA Nobuaki)　内線：2397　　担当：標本作製分野

分子構造解析研究室

【概　要】

分子構造解析研究室にはナノフロー液体クロマトグラフ質量分析計（nanoLC-MS/MS）が設置されており、主にタンパク質同定を目的としたプロテオーム解析を行うことができます。プロテオーム解析は試料中のタンパク質を包括的に解析する手法であり、バイオマーカー探索や相互作用タンパク質の同定などに活用されております。さらにリン酸化やユビキチン化などのタンパク質の翻訳後修飾を解析することができ、細胞内シグナル伝達などの分子メカニズム解明に大きく貢献しております。

Keyword：質量分析、LC-MS/MS、プロテオーム解析

【機器紹介】

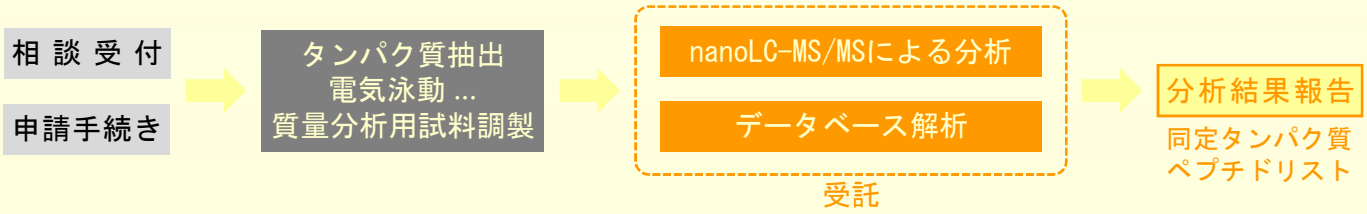
質量分析装置にはサーモフィッシャーサイエンティフィック社のOrbitrap質量分析計を2機種備えており、ナノフロー液体クロマトグラフィーと接続してタンパク質（ペプチド）を高感度に分析することが可能です。得られた質量分析データは、解析ソフトウェア「MASCOT」を用いたデータベース検索を行うことで、測定サンプルに含まれるタンパク質が同定されます。同定されたタンパク質にはデータベースとのマッチング度合いを示すスコアが提示されます。

さらに分析前の試料調製に使用可能な、マイクロ冷却遠心機と遠心濃縮機も備えております。

【プロテオーム解析受託サービス】

当室では、より多くの方に質量分析装置をご利用頂けるよう、プロテオーム解析の受託分析を随時受け付けております。受託分析では依頼者から分析サンプルをお預かりし、専任の担当者が最適な機器および条件で分析を行います。分析後には解析ソフトウェアによるタンパク質同定を行い、依頼者へ解析結果を報告致します。

これからプロテオーム解析を始められる方や単発での分析をご検討中の方も、ぜひ受託分析をご活用ください。研究目的やサンプルに応じた分析プランや、測定サンプルの準備方法などについてご案内致します。



問い合わせ先

瀧 健太朗（TAKI Kentaro）内線：2398　担当：分子構造解析研究室

細胞機能解析研究室

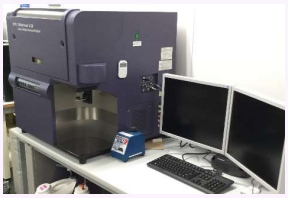
【概　要】
　当研究室は、フローサイトメーターと分子間相互作用測定装置を設置しています。
　フローサイトメーターはセルソーターを2台、アナライザーを4台設置しています。病原体感染サンプル及び臨床サンプルを用いた実験はBSL2まで可能ですが、事前の申請及び承認が必要です。ご利用の際は必ず担当職員までご相談ください。セルソートは受託サービスも行っています。
　分子間相互作用測定装置は、表面プラズモン共鳴（SPR）を用いたBiacore、SPRが顕微鏡と融合したSPR顕微鏡、及び、等温滴定型カロリーメーターを設置しています。

Keyword：フローサイトメーター、セルソーター、SPR、ITC

【フローサイトメーター】
　フローサイトメーターは、単離し蛍光標識した細胞の浮遊液を用いて、細胞1個1個を測定する装置です。細胞の大きさや形状の違い、蛍光の種類やその強度を測定し、細胞の性状識別や機能の同定、細胞群を構成する種々の細胞の存在比などを短時間で解析することができます。また、細胞分離装置(セルソーター)により、特定の細胞群を生きたまま分取することも可能です。

セルソーターFACS Aria Fusion は、バイオセーフティーキャビネット（BSC)と融合したセルソーターです。セルソートがBSC内でできるため、病原体感染サンプル及び臨床サンプルを用いた実験もより安全に行うことが可能です。また、BSCはクリーンベンチとしての機能も有するので、よりコンタミしにくい環境でセルソートを行うことができます。

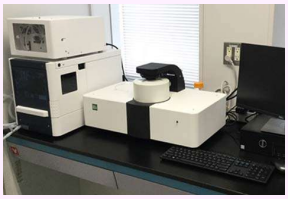
セルソーターFACS Melodyは、従来機ではある程度の経験が必要であった設定などが自動化され、操作が簡易化された装置です。フローサイトメーターの経験がない方にもお勧めです。黄緑レーザー(561nm)も搭載していますので、多くの蛍光タンパクに対応可能です。プレートソート機能を用いて、ウエルプレートにシングルセルを播種することも可能です。



アナライザーLSR Fortessa X20は、5本の励起レーザーを搭載し、18色までの多色解析が可能です。多色解析は8色を超えたあたりから難しくなってきますが、最近は、UV励起、Violet励起の明るい蛍光色素が多く開発され、以前に比べて実用的になってきました。ぜひ、挑戦してみてください。スタッフもお手伝いさせていただきます。

【分子間相互作用測定装置】
　標識を使わず生体分子の相互作用が解析できます。実験に最適な装置を選んでご利用ください。

Biacoreは、表面プラズモン共鳴（SPR）を用いて、標識を使わずにリアルタイムで生体分子の相互作用をモニタリングできる装置です。分子間の結合の有無や結合量、結合の強さの測定に加え、速度論的相互作用解析が行えます。



SPR顕微鏡は、Biacoreに代表されるSPR分子間相互作用測定と顕微鏡の明視野画像を組合わせた装置で、分子間相互作用を二次元マッピングとして取得できます。細胞をSPRセンサーチップ上で培養し、そのままSPR計測しますので、細胞膜上の分子を精製することなく、本来の環境に近い状態で計測・解析が行えます。

等温滴定型カロリーメーター(ITC) は、溶液中の分子間相互作用に伴う微小な熱変化を測定する装置です。ITCは、熱をプローブとして相互作用を検出するため、試料の固定化や修飾をすることなく、溶液中という天然に近い条件のまま測定を行えます。

問い合わせ先

田中 稔 (TANAKA Minoru)　内線：2399　担当：細胞機能解析研究室・部門全般
丸井 萌子 (MARUI Moeko)　内線：5779　担当：細胞機能解析研究室・WEBページ

遺伝情報解析研　究　室

【概　要】

当研究室は主として次世代シーケンサーを含むDNA配列決定装置と超遠心機、各種分光計、定量PCR装置、イメージャーが設置されています。開設当初はある程度の熟練が必要な装置でしたが、現在は多くの装置が自動化・改良され、さらに制御機構および解析ソフトが洗練されたため、比較的簡便な装置になりました。また、2024年度にはシングルセル解析プラットフォーム、2025年度にはロングリードシーケンサーが新たに導入され、研究データの更なる拡大が期待されます。

Keyword：次世代シーケンサー、超遠心機、イメージャー、プレートリーダー

【機器紹介】

次世代シーケンサー（Illumina社製 MiSeq, ONT社製 PromethION 2 Integrated）

MiSeqでのシーケンスを行うにあたっては、専用のキットが必要です。遺伝子発現、アンプリコン、HLAタイピング、メタゲノムなどに対応しています。

ロングリードシーケンスが可能なPromethION 2 Integratedも専用の試薬・フローセルが必要になります。菌叢解析やダイレクトRNAシーケンスなどのアプリケーションに対応しています。

シーケンスの前処理装置各種、データ解析用のソフトウェアも設置してあります。

定量PCR装置（Bio-Rad社製 デジタルPCRシステムQX200）

デジタルPCRシステムは、核酸を微小な液滴に分配した状態で増幅させることで絶対定量を行います。サンプル間の小さな差や、低発現の遺伝子の検出も可能です。専用試薬は用意していただく必要があります（オイル・カートリッジは用意してあります）。リアルタイムPCR装置も設置しており、5～6色蛍光検出が可能です。96ウェルプレートをご使用ください。

超遠心機（Beckman & Coulter社製 フロア型超遠心機 XE-100）

フロア型は最高回転数100,000 rpmまで、卓上型は最大遠心力1,000,000×gまで可能です。各型に対応したローター（水平、垂直、固定角）があります。チューブ等の消耗品はメーカーのホームページを参照して、各自で購入してください。大事故につながる恐れがある機器のため、安全講習を受けたうえで、安全使用の手引きに従って操作してください。

分光計（Molecular Devices社製 プレートリーダー iD5）

プレートリーダーは吸光度のほか化学発光、蛍光の測定が可能です。吸光度は1nm刻みで検出可能で、蛍光測定については時間分解蛍光も測定できます。96ウェルプレート以外にも対応しています。データはExcel方式で各自持ち帰って解析してください。イメージャーも設置しており、ブロッティング膜等のデジタイズ、化学発光、蛍光（近赤外も含む）での撮影が可能です。画像データはtiff方式で各自持ち帰って解析してください。

Provided by
10x Genomics

シングルセル解析プラットフォーム （10x genomics社製 Chromium X）

エマルジョンを作ることで1細胞ごとに単離するドロップレット方式を採用したシングルセル解析プラットフォームです。各自での利用も可能ですが、シングルセルシーケンスライブラリ調製の受託も承っております。利用、受託どちらにおいても、専用試薬・専用消耗品は各自でご用意ください。

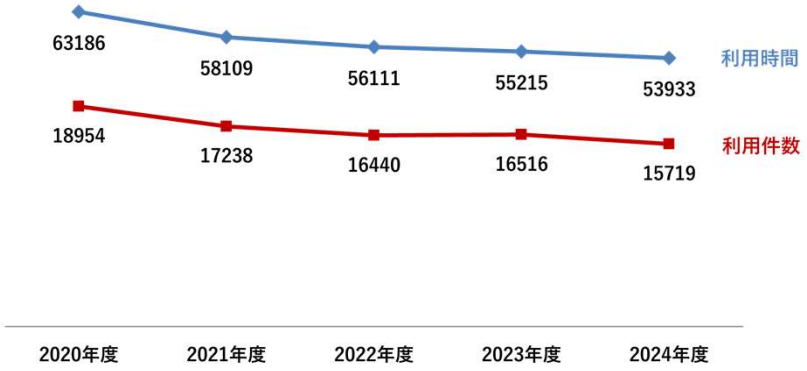
問い合わせ先

丸井 萌子 (MARUI Moeko)　内線:5779 担当：遺伝情報解析研究室・WEBページ

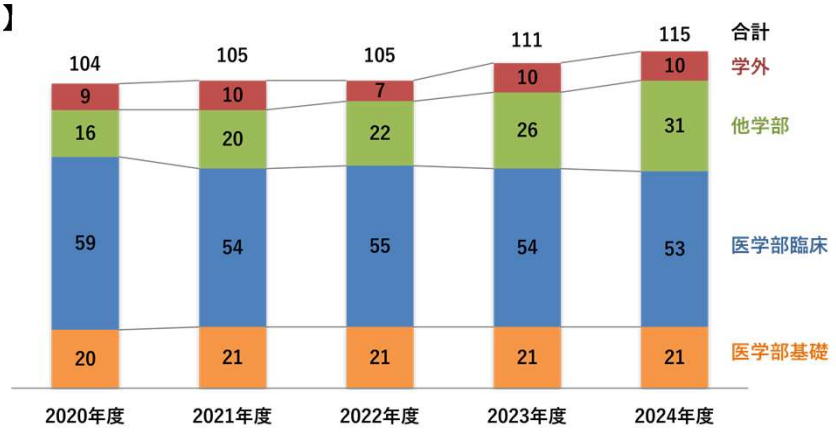
利用実績

利用実績の推移

【利用件数・時間】



【分野別 利用講座数】



講習・地域活動

分析機器部門では、機器の利用促進のために利用者向けの各種講習会を行っており、学部内事業として大学院基盤医科学実習も開催しております。また、地域活動として一般市民向けのイベントなどにも協力しています。

講習会開催実績等、詳細は部門のホームページにてご覧いただけます。

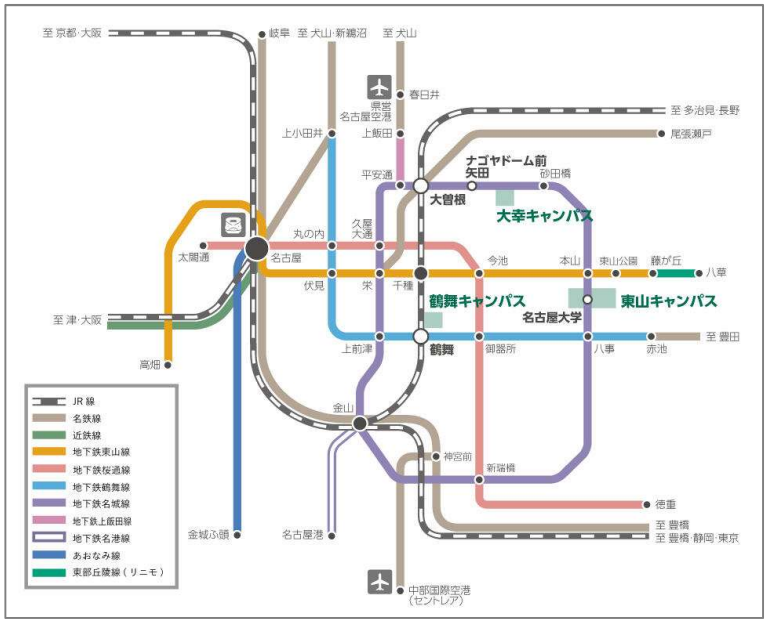
利用実績：ホームページTOP＞論文・実績＞＞利用実績

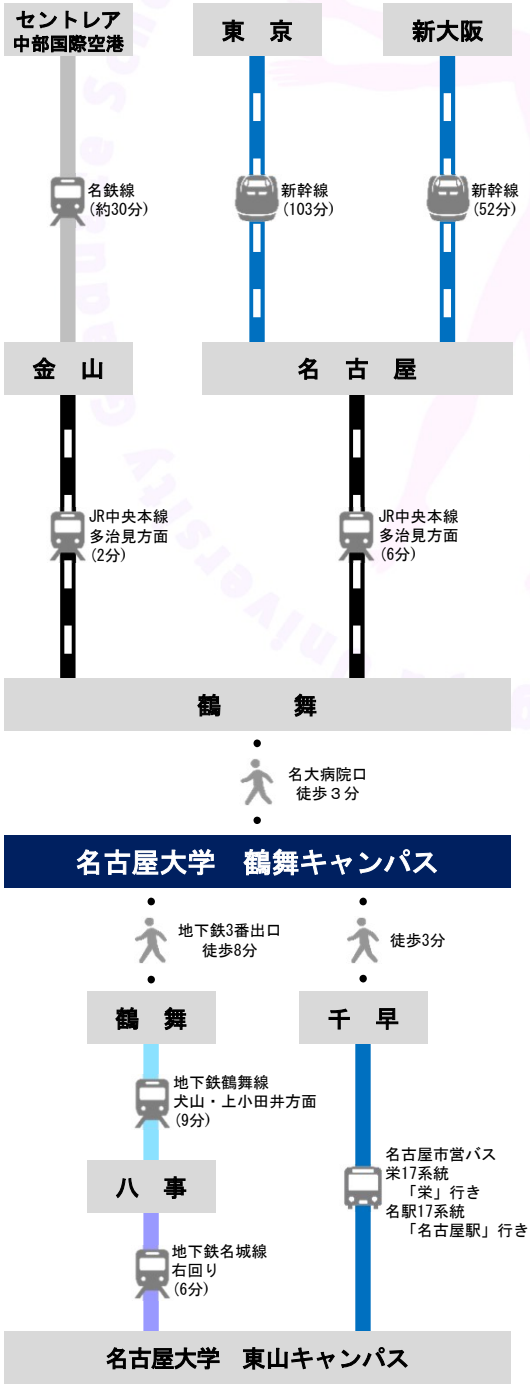
論文リスト

論文リストをホームページで公開しています。当部門の利用により得られた成果をご報告いただいたもののうち、著者のご承諾をいただいたもののみとなりますが、2015年より公開しております。部門のホームページにてご覧いただけます。

論文リスト：ホームページTOP＞論文・実績＞＞論文リスト

交通アクセス





キャンパスマップ

分析機器部門からのお願い

当部門の利用によって成果（論文、学会発表など）を得られた方には、成果報告をお願いしております。
今後の部門運営のためにも、是非ご協力をお願いいたします。

報告フォームはこちらから！

名古屋大学大学院医学系研究科
附属医学教育研究支援センター **分析機器部門**

〒466-8550　愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地
https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kiki/
052-744-2407　　052-744-2408

2026.02 発行